



回																			
覧																			

思いを語り合う場づくり 第1回高松の池フォーラム

2月4日(日), 上田公民館で第1回高松の意見フォーラムが開かれました。池の周辺でさまざまな活動をしている人たちが思いを語り合う場にしようとハートブルームタウンたかまつ(村上洋樹代表)が主催。パネルディスカッションには村上代表と上田地域活動推進会の鈴木孝男顧問、岩手大学まちづくりサークルNPCNの佐藤杏菜さんが登壇しました。佐藤さんは「インターネットの影響は大きい。若者の視点できれいな写真, 高松の魅力を世界に広めたい」と意欲を示していました。



会場には高松の池への思いが溢れていました

高校生が活躍できる地域を 岩手県生涯学習推進研究大会

2月2日(金), 花巻市の県立生涯学習推進センターで岩手県生涯学習推進研究大会が開かれました。テレビドラマ化された高校生レストランの仕掛け人として有名な岸川政之さんが「未来の大人たちに私たちができること」と題して講演。岸川さんは「小さくまとまろうとしたところから腐り始め, 風化がはじまる。いろいろな人ともとのつながることで気づき, 成長していける」と会場に集まった人達に語りかけていました。



三重県多気町を退職し皇學館大学の教壇にも立つ岸川さん

法も制度も使いよう。 いわてリノベーションシンポジウム

1月31日(水), 岩手県公会堂でいわてリノベーションシンポジウムが開かれました。「法も制度も使いよう。」を掲げ, 一般社団法人公民連携事業機構の岡崎正信さん, 清水義次さん, 木下斉さんらがトークセッションに登壇しました。

木下さんは「活気があった昔の商店街の姿をいつまでも追いつけるのはナンセンス。時代によって人々のニーズは異なるため, 都市の縮退が急速に進む現代において, ニーズをうまく反映させられるかが鍵」と, 旧来的な考え方からの脱却を呼び掛けました。



ステージで熱いトークを繰り広げた登壇者

あなたが伝える盛岡の魅力 盛岡ブランドフォーラム

2月12日(月), 中央公民館で「もりおかブランドフォーラム2018」が開かれました。テーマは「キリトルモリオカ～あなたが伝える盛岡の魅力」。全国を飛び回る編集者・藤本智士さんらが登壇しました。藤本さんは「発信力が弱いと言うが, どう発信するかの前に, こうなりたいというビジョンがあるべきだし, 人を巻き込む力が大切。一人でやるのではなく分業することでクオリティが高まり, 関わる人を増やすこともできる」と呼び掛けました。



パネルディスカッションで意見を交わす登壇者の皆さん

つながるわ Vol.59 輪・和・WA... 盛岡・和・WA...

発行：盛岡市市民部市民協働推進課
〒020-8530 盛岡市内丸12-2
TEL：019-626-7535 (直通)
E-mail：kyodo@city.morioka.iwate.jp
(平成30年3月発行)



もりおか 雪あかり

例年に比べて多くの雪に見舞われた2月, 盛岡市内では各地で雪あかりが開催されました。今回の表紙を飾るのは, 青山地区まちづくり協議会が開催した「青山雪あかり」。

今年度で10回目となる同イベントは, 青山地区のシンボルである盛岡ふれあい覆馬場プラザ

を会場に開催。無数の雪あかりが冬の夜を照らしました。

制作を手がけたのは, 児童から年配者までの幅広い年代の地域住民。同会では, イベントを通して住民間の交流を図り, 地域の連帯感を高めることも狙いの一つとしています。

平成29年度 コミュニティリーダー研修会

資料と動画はWEBで



盛岡市公式ホームページ
【広報ID/1022286】で
ご覧いただけます。

第2部 事例発表

平成30年2月16日（金）、盛岡劇場で平成29年度コミュニティリーダー研修会（盛岡市／盛岡市町内会連合会／玉山地域自治会連絡協議会／“世界につながるまち盛岡”市民会議 地域連帯・青少年健全育成運動部会主催）が開催されました。研修会は二部構成で行われ、第一部では岩手大学三陸復興地域・創生推進機構の船戸義和特任研

究員が「総参加型を目指す自治会づくりー災害公営住宅での取り組みに学ぶー」と題して講演。第二部では、平成29年度「元気なコミュニティ特選団体」に認定された仙北一丁目第二町内会（略称：仙睦会）と、「地域協働推進事業」の実施地区である好摩地区まちづくり協議会の2団体が事例発表を行いました。

第1部 講演

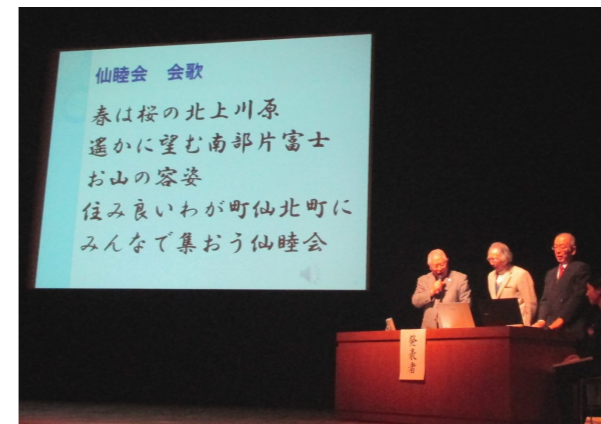
「総参加型を目指す自治会づくりー災害公営住宅での取り組みに学ぶー」
講師：船戸義和氏



陸前高田市や大船渡市など、約20カ所の災害公営住宅においてコミュニティ形成の支援や担い手育成に携わってきた岩手大の船戸義和特任研究員。今回の講演では、陸前高田市の災害公営住宅である県営栃ヶ沢アパートでの取り組みを例に挙げ、自治会設立まで過程や災害公営住宅の現状についてわかりやすく解説してくださいました。

船戸さんは「被災地に限らず、コミュニティづくりはゆっくりと下るエスカレーターを上り方向に逆走しているようなもの。登る人（コミュニティの担い手）が、歩く（実践を積み重ねる）ことを続けないと地域力は縮退の一途を辿ることになるため、住民の総参加により継続的な取り組みを行うことが重要」と呼び掛けました。

平成29年度「元気なコミュニティ特選団体」 仙北一丁目第二町内会（略称：仙睦会）



仙北一丁目第二町内会では、新たなマンションや住宅の分譲をきっかけに若い世代の転入者が増加したことから、住民同士の交流の機会を広げ、町内会活動の活性化を図るため「町内会

まつり」を開催。平成29年度で4度目の開催と歴史はまだ浅いものの、児童から年配者まで世代の垣根を越えて多くの住民が参加するイベントです。

また、夏の風物詩として市内外から多くの観光客が訪れる「舟っこ流し」などの長い歴史を持つイベントにも世代間が協力して参加。深刻化するマンパワー不足を事務の効率化を図ることでカバーし、これまで育んできた伝統文化の継承にも積極的に取り組んでいます。

発表の最後には、町内会創立60周年記念事業（平成9年）に町内会の有志で製作した「仙睦会の歌」を登壇者3人で歌い上げました。

盛岡市「地域協働推進事業」実施地区 好摩地区まちづくり協議会



好摩地区まちづくり協議会は、平成26年度に「好摩地区まちづくり計画」を策定。「活気に満ちて魅力あふれるまち・好摩」をスローガンに掲げ、①自然環境 ②生活利便性 ③福祉・保健

④安全・安心 ⑤教育・文化 ⑥にぎわい・ふれあい——の6つの分野から、まちづくりに係る様々な事業を行っています。

今回は、その中の「①自然環境」の分野に関連して「ミズバショウ公園整備の取り組み」と題し取り組み事例を発表。

かつては大量のゴミが散乱していた湿原を地域の住民達の手で地道に整備し、現在では公園一帯に咲き誇る満開のミズバショウが見られるようになりました。地域がこれまで歩んできた公園整備までの長いプロセスを、多くの写真を交えて紹介してくださいました。